



国民の森林・国有林

林野庁
中部森林管理局

〒380-8575 長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



表彰式後の発表者とアドバイザーの方々

安定的・効率的な木材(丸太)の生産体制を確立するため、 「生産性向上実現プログラム取組結果発表会」を開催

主な項目	○ 平成27年度生産性向上実現プログラム取組結果発表会を開催	P 2
	○ 平成27年度治山・林道工事コンクール表彰式の開催	P 4
	○ シリーズ「森林官等からの便り」	P 9
	○ シリーズ「ご当地自慢」	P10

平成二十七年年度

生産性向上実現プログラム

取組結果発表会を開催

【資源活用課】三月八日、中部森林管理局大会議室において、平成二十七年年度生産性向上実現プログラム取組結果発表会を開催しました。

中部森林管理局では、木材需要の拡大に伴う安定的・効率的な木材（丸太）の生産体制を確立するため、今年度から「生産性向上実現プログラム」を実施し、

素材生産事業者、民有林関係者及び研究者の方々と連携して、生産性向上に取り組んできました。

この発表会は、管内十一箇所に設定したモデル事業地におけるそれぞれの取組について発表するものです。

当日は、富山、長野、岐阜、愛知県の林業事業者等から八十一名、アドバイザー五名、各県の担当者六名、国有林職員八十一名の計一七三名が参加し、会場は満席状態となりました。



桂川局長の挨拶



満席となった会場（前列はアドバイザーの方々）

開会に当たり、桂川局長から「木材需要は増加傾向にあるものの、木材価格の上昇や、木材搬出を行う林業従事者の急激な増加が期待できない状況で木材の安定供給を行うには、生産性の向上以外に解決策はなく、生産性の向上が、会社の利益増、従業員の待遇改善、生産量の増加といったプラスの循環を生み出すことに繋がる。中部局管内は、地質・傾斜等の条件が全国的には厳しいため、飛躍的に生産性を上げることは難しく、時間もかかるが、いま生産性向上の努力を進めていかなければ、林業・木材産業の将来は切り開けないことから、国有林としても林業事業者の生産性の向上を支援して参りたい。本日の発表会では、率直な意見交換をお願いします。」との挨拶がありました。

発表は、事業者と署等の担当者が協同して行い、その後、アドバイザーや局長からの助言、参加者からの質問をいただきました。

意見交換では、中村森林整備部長が進行役となり、モデル事業地において直接アドバイザーを受けた、三名の研究者の方から関連情報の提供後、参加者からのアドバイザーに対する質問や発表内容に対する質問も多数出されるなど、生産性の向上に対する関心の高さがうかがわれ、今後の更なる生産性向上に向けた取組に期待が持てるものとなりました。

終了後、林野庁業務課の唐沢企画官から「産・学・官が連携して行われた生産性向上実現プログラムの取組では、多くの事業者が目標生産性を上回り努力した



発表の様子

平成27年度 生産性向上実現プログラム取組



講評を行う林野庁業務課唐沢企画官

成果が現れていたこと。」また、数字に現れない苦労に対するねぎらいの言葉とともに、「来年度以降の取組にも期待する。」との講評をいただきました。

今回の発表会は、今年度の生産性向上プログラムの取組の集大成として、関係者が努力した内容を評価することを目的に行われましたが、発表会全体を通じて互いの努力を認め合う雰囲気の中で実施することができました。

中部森林管理局では、平成二十八年度もモデル事業地を設定し、生産性の向上に積極的に取り組んでいくことにしています。

受賞事例と発表者は次のとおりです。

○最優秀賞

・集材・造材・林内運搬の作業効率を

高める工夫について

日和田林産(有) 上田高之

飛騨森林管理署 大森裕司



○優秀賞
・生産性の向上を目指して
(プログラム取組結果)
(株)吉本 由井正弘
東信森林管理署 森 孝之



・生産性向上に向けた取組の
成果報告について
(有)高遠興産 飯島克也
南信森林管理署 下城大作



・民・国・学の連携による「生産性向上
実現プログラム」への取組について
新城森林組合 白井 漸
愛知森林管理事務所 中谷淳規



○努力賞

・高密度路網による集材作業の
効率化について
北信木材生産センター(協) 田中真喜
北信森林管理署 西方雄一郎



・帯状保残帯を含む櫛型事業地における
生産性向上への取組について
(組)山仕事創造舎 高橋康夫
中信森林管理署 岩塚伸人
森下佳宏



・御岳山麓火山岩地帯における
生産性向上に向けた取組について
木曽協和産業(株) 下島 仁
木曽森林管理署 北沢伸之



・木曽谷流域における
先進的架線システム導入について
(有)ヤマカ木材 勝野泰平
南木曽支署 安田智宏



・生産性向上を目指した取組について
飛騨市森林組合 新田克之
富山森林管理署 山本通明



・架線系作業システムにおける

生産性向上への取り組みについて
東白川村森林組合 大坪哲也
岐阜森林管理署 村木英徳



・保育間伐活用型等における

生産性向上の取組について
恵南森林組合 小倉英敏
東濃森林管理署 桂川佳之



平成二十七年
度
治山・林道工事コンクール
表彰式の開催

〔治山課・森林整備課〕平成二十七年
度 治山・林道工事コンクール表彰式を、三
月四日に中部森林管理局において実施し
ました。

このコンクールは、国有林野の公益的
機能を十分に発揮させ、森林林業・木材
産業の成長産業化、その他の事業実施に
おける施策効果を一層発現させることに
貢献した治山・林道工事であって、国有
林の模範としてふさわしいものを表彰す
ることにより、治山・林道工事における

計画、設計・施工の適正化及び設計・施
工技術の向上並びに関係者の意欲高揚
に資することを目的に治山部門は昭和
四十二年度、林道部門は昭和四十四年
度から実施しています。

前年度に中部森林管理局管内で施工
した、治山工事百二十一件、林道工事
二十三件を対象に施工管理全般及び安全
管理について審査を行い、治山部門で
十四件、林道部門で六件を優良工事とし
て選出し、この中から、優秀工事として
治山部門四件・林道部門二件を林野庁表
彰に推薦し、五件が林野庁長官賞を受賞
しました。また、優良工事として選出し
た、治山部門の十一件、林道部門の四件
と、林野庁長官賞を受賞した工事の現場
代理人、主任技術者並びに監督職員が中
部森林管理局長賞を受賞しました。

表彰式は、中村森林整備部長が審査報
告を行った後、桂川局長が賞状を授与し
ました。



審査報告を行う中村森林整備部長

なお、林野庁長官賞の授与式は局長表
彰に先立ち、二月二十三日、林野庁にお
いて行われました。

各賞の受賞者は次のとおりです。

◎林野庁長官賞

〔治山工事部門〕

◇株式会社北條組 (長野市)
赤川(大滝川)復旧治山工事 (北信署)

◇大宗土建株式会社 (南木曾町)
鍋割利右エ門沢(ナシノ木沢)

◇水源地域整備工事 (南木曾支署)
◇有限会社下仲組 (高山市)

◇白谷復旧治山工事 (飛騨署)

〔林道工事部門〕

◇株式会社傳刀組 (大町市)

◇鹿島川林業専用道新設工事 (中信署)

◇株式会社林工務店 (高山市)
竜ヶ峯林道外1橋梁架替工事 (飛騨署)



表彰状の授与

中部森林管理局長賞

〔治山工事部門〕

- ◆伊藤建設株式会社 (魚津市)
- 阿部木谷水源地域整備工事 (富山署)
- ◆株式会社後藤組 (糸魚川市)
- 山之坊復旧治山工事 (中信署)
- ◆木曾土建工業株式会社 (木祖村)
- 大笹沢特定流域総合治山工事 (木曾署)
- ◆山崎建設株式会社 (飯田市)
- トチボラ沢復旧治山工事 (伊那谷総合)
- ◆株式会社内山組 (飯田市)
- 牧小谷上沢復旧治山工事 (伊那谷総合)
- ◆加永建設株式会社 (飛騨市)
- 穂高(柳谷)復旧治山工事 (飛騨署)
- ◆株式会社長瀬土建 (高山市)
- 宮(大ヌクキ谷)復旧治山工事 (飛騨署)
- ◆黒田建設株式会社 (本巢市)
- 大河原(越山谷)水源地域整備工事 (岐阜署)
- ◆株式会社梅田組 (下呂市)
- 七宗本谷(細洞)復旧治山工事 (岐阜署)
- ◆石橋建設株式会社 (中津川市)
- 姥ナギ沢復旧治山工事 (東濃署)
- ◆今泉建設株式会社 (岡崎市)
- 豊橋(多米)2復旧治山工事 (愛知所)

〔林道工事部門〕

- ◆株式会社羽田組 (長和町)
- 男女倉林業専用道新設工事 (東信署)
- ◆青木建設工業株式会社 (上田市)
- 鷲ヶ峰林業専用道新設工事 (東信署)
- ◆株式会社名工土木 (南木曾町)
- 中ノ沢林業専用道新設工事 (南木曾支署)
- ◆株式会社水口土建 (高山市)
- 鈍引沢林業専用道新設工事 (飛騨署)
- ◆現場代理人、主任技術者及び監督職員部門
- 赤川(大滝川)復旧治山工事 (株式会社北條組)
- 主任技術者 市川 澄雄
- 北信森林管理署 監督職員 百瀬 裕章
- 鍋割利右エ門沢(ナシノ木沢) 水源地域整備工事 (大宗土建株式会社)
- 主任技術者 原 智浩
- 南木曾支署 監督職員 宮地 源治
- 白谷復旧治山工事 有限会社下仲組
- 主任技術者 下仲 克幸
- 飛騨森林管理署 監督職員 山田 好男
- 鹿島川林業専用道新設工事 株式会社傳刀組
- 主任技術者 百瀬 真一



受賞者の皆さんと

中信森林管理署

監督職員 松田 博文

◆竜ヶ峯林道外1橋梁架替工事
株式会社林工務店

現場代理人 桂川 景介
主任技術者 萩田 忠幸
飛騨森林管理署 監督職員 光坂 紀治

「木質バイオマスエネルギー
利活用セミナーin中部」
が開催される

「名古屋事務所」二月二日、岐阜県と岐

阜県森林技術開発・普及コンソーシアム
などが主催する「木質バイオマスエネル
ギー利活用セミナーin中部」が岐阜市内
で開催され、県内や近隣県から木材関連
事業者・行政関係者など、約一〇〇名が
参加し木質バイオマスの利活用をめぐる
最新の動向などについて学びました。

開催にあたり岐阜県の長沼県産材流通
課長から「県内の伐採量について増加し
ているが六割程度は利用されていない
現状がある。本セミナーが未利用材の更
なる有効活用につながることに期待した
い。」と挨拶がありました。

セミナーでは、最初に(一社)日本木
質バイオマスエネルギー協会の川越専門
調査員より、バイオマス発電を中心とし
た最近の木質バイオマス利用の状況につ
いて講義を受けました。

FIT制度開始以降認定された木質バ
イオマス発電所の稼働(二〇一五年九月
現在二十九箇所)が相次ぎ、それに伴
い木材のバイオマス利用量が大幅に増加
している状況や五、〇〇〇t以上の大規
模発電は燃料が集めにくくなっている
現状から電力買い取り価格が高い二、
〇〇〇t未満の計画についての問い合わせ
が多くなっていることなどが報告され
ました。今後は熱利用も含めた木質バイ

オマス利用を林産業や地域とのつながりと絡めどう構築していくかが課題などではないかということでした。続いて、三重県多気町において二〇一九年度稼働を目指すORC（オーガニックランキンサイクル）ユニットによる木質バイオマスコージェネレーション温浴施設設置に取り組んでいる（株）バイオオマスアグリゲーション代表の久木取締役より、ORCシステムのメリットと可能性などについて講義を受けました。



セミナー会場の様子

ORCシステムは、通常の水蒸気サイクルとは異なり、ボイラーで加熱したサールオイルを沸点の低いシリコンオイルなどの有機媒体と熱交換し発電する仕組みで、小規模でも効率良く発電できるうえに排熱で九〇度の温水を提供できることから熱と発電を合わせたエネルギー

ギー変換効率は八〇％程度になるとのことです（直接燃焼蒸気式は二〇％程度）。そのうえ、蒸気式よりも低温で運転できることから燃料の制約が少ないことも魅力で、欧州では普及が進んでいる技術だそうです。日本ではまだ導入実績がないとのこと。また、課題は設備費が割高なことなどとのことでした。

最後に、未利用木材の集荷・加工の取り組みを進めている笠原木材（株）リサイクル事業部の桂川氏より、国有林から購入している安定供給システム材を中心としたバイオマス発電用チップ製造の効率化を目指した各種取組と課題について講義を受けました。

採算ベースにのせるための効率的な搬出、量の安定的な確保など課題が多く、今後は同業他社との連携などを模索していきたいとのことでした。

各氏からの講演を終えた後は、「木質バイオマスの利活用」をテーマに久木氏・桂川氏、そしてコンソーシアムの中村氏を加えた三名をパネリストに、川越氏がコーディネーターとなつてパネルディスカッションが行われました。中村氏からは「バイオマス利用を後押しする行政の支援について」、桂川氏からは「他社や行政との情報共有の必要性について」、久木氏からは欧州で行われている「バイオマス利用から日本に適したスタイル構築の必要性などについて」意見が出されました。



パネルディスカッションの様子

参加者からは熱利用の活用と課題、行政の立場として支援のあり方、竹林処理の一環として竹の利用はできないかなど活発に質問や意見が出されていました。木質バイオマスの利活用については、これまではどうしても発電利用に注目しがちでしたが、今回のセミナーを通じて、熱利用も含めた可能性、林産業との連携、地域振興も絡めた取り組みなど幅広い視点から考えていく必要性を改めて感じました。

各地からのたより

**軽井沢の地域ボランティアによる
浅間山国有林「藪刈り作業」が
佐久地域景観賞優秀賞を受賞**

〔東信署〕二月十日、軽井沢西地区国有

林藪刈り実行委員会が中心となり、地域ボランティア作業として実施している「浅間山麓軽井沢西地区国有林藪刈り作業」が、佐久地域景観協議会（会長清水深佐久地方事務所長）が選定する佐久地域景観賞の優秀賞を受賞しました。



受賞を喜ぶ内堀会長（右）と
打越成城大学法学部教授（中）、左は松井東信署長

佐久地域景観賞とは、佐久地域の良好な景観づくりに寄与している建築物・工作物、また、まちづくり活動を表彰するため平成五年から始まったもので、今回で一〇回目を迎えます。

「まちづくり活動部門」で優秀賞を受賞した「藪刈り作業」は、地域住民が主役となった取組の一環として、平成十九年からスタートし、人間の生活エリアと野生動物の潜みややすい藪との間に、野生動物が苦手とする幅広く見通しの良い緩



林内の作業風景

衝帯を設け、野生動物とのバッタリ遭遇の防止やゴミのポイ捨て、不法投棄の防止等、地域住民や子どもたちにとって安全・安心な里山をつくることを目的に、軽井沢町追分の一、〇〇〇林道沿いの浅間山国有林内において、年に一回実施しており、軽井沢町の町議会議員をはじめ役場職員、地元西地区住民や町商工会、地元小学校の児童やPTA、また東京の成城大学の学生など、町内外の方々に加え、長野国有林森林整備協会東信支部や群馬県の桐生林業の関係者もボランティアで参加するなど、地元と都会の大学生、森林整備のプロという様々な立場の方々が参加し、林内の藪の刈払いや倒木の運搬、除去、集積作業を行っています。



作業後の林内

内堀実行委員会会長から「森林管理署の皆さんをはじめ、地元の地域住民の皆さん、各行政機関の皆さん、林業団体の皆さん等、多くの方々のご協力と支えにより、長い間活動が続けてきた藪刈り作業の努力が認められ、地域景観賞の優秀賞という大変に光栄な賞を頂き、改めて活動が続けていく励みとなりました。ありがとうございます。平成二十八年度は『藪刈り作業』がスタートして一〇年目という節目の年を迎えます。今後とも皆様のご協力、引き続き、どうかよろしくお願い致します。」と感慨深げに表彰状を見つめながら、署長への御礼の言葉を述べていました。

中部森林管理局・森林総合研究所

技術交流会

相互の知見・認識共有

課題解決をめざして

「木曽署」二月十六日から十七日、木曽森林管理署管内において、木曽地方事務所、地元上松町、王滝村の関係者、当署職員と各地の国立研究開発法人森林総合研究所の研究者のほか、中部森林管理局からは総務企画部長、計画課長、技術普及課長が、森林技術・支援センター、木曽森林ふれあい推進センター、南木曽支署から職員約六〇名が参加し、第五回「中部森林管理局・森林総合研究所 技術交流会」を開催しました。

木曽谷の国有林においては、中部森林管理局のほか森林総合研究所をはじめとする研究機関や大学による多様な試験研究や調査が行われており、事業を推進する上での課題解決に向けた研究や技術開



交流発表会

発及びそれらにより得られた成果の普及を図るため、相互に知見や認識を共有することを目的とし、平成二十三年度より開催されています。

特に、木曽谷の国有林には、世界的に見ても貴重な森林である温帯性針葉樹林がまとまって分布しており、この温帯性針葉樹林を保存・復元することを目的とした「木曽悠久の森」が設定され、この取り組みは天然更新の重要性が高く、多くの試験や研究が行われています。

また、国内でも有数の木材生産地であり、木曽ヒノキをはじめとする天然林や高齢級人工林が分布し、研究機関や研究者にとって非常に興味深いフィールドでもあり様々な調査が行われています。

当日は、これらの調査研究の成果等について、一〇課題の発表が行われました。

森林総合研究所からは、天然更新を進める上で課題となっているササに関し、ササの繁殖特性や歴史資料からのササの開花・枯死の周期の考察、そして、ササ型林床の処理等に関する研究、古代から温帯性針葉樹の分布等を含めた考察や、最新の調査技術の発表など興味深い話題が提供されました。

中部森林管理局からは、長期にわたるヒノキの豊凶や林分成長固定試験地の調査結果、赤沢自然林養林の利用者に関する考察及び昨今課題となっているニホンジカの対策に関する調査研究などを発表

しました。

それぞれの発表について関係者からは多くの質疑があり、有意義な意見交換の場となりました。

また、翌日は南木曽支署管内で平成二十六年七月に発生した土石流災害の復旧工事現場の見学、当署管内の土場及び木曽ヒノキを扱っている製材工場を見学しました。



新上松土場を見学する参加者

今回の交流会を通して、参加者からは、国有林ならではの長期間にわたる調査データを蓄積し検証していくことは極めて重要であることや、災害対策の重要性、ヒノキの価値を改めて実感できたとの感想が聞かれました。

また、発表者からは試験研究成果を事業の担当者や地域の関係者にプレゼン

テーションできることは貴重な機会であり、今後は他の分野の発表も行いたいとの声も聞かれ、新たな試験研究に向けた準備が始まっています。

金華山で林野火災総合防衛訓練を実施

～金華山国有林～

【岐阜署】林野庁が実施する「全国山火事予防運動（三月一日から七日）」を前にした二月二十九日、岐阜市では市民の憩いの場である金華山、また、貴重な観光資源の岐阜城を林野火災から守るとともに入山者の早期避難誘導・安全確保を図るために、関係機関が連携して「林野火災総合防衛訓練」が実施されました。



ジェットシューターによる消火訓練

当日はあいにくの天候となりましたが、岐阜県防災航空隊防災ヘリを始め岐

阜市消防・岐阜市農林部・岐阜観光索道・岐阜森林管理署等、総勢二二一名が参加する大規模な訓練となりました。

空中消火訓練をはじめ、災害対策本部運用訓練や避難誘導訓練が実施され、岐阜森林管理署は市職員とともにジェットシューターによる消火訓練に参加しました。

これを機に有事の際の被害の軽減はもとより、住民の方々の林野火災防止に対する意識が更に高まることが期待されます。

愛知県林業普及関係

合同発表会に参加

【愛知所】二月二十六日、愛知県豊田市において「愛知県林業普及関係合同発表会」が開催され、当所も参加し、伐・造一貫作業システムへの取組事例について発表を行いました。

この発表会は、愛知県の林業普及指導員の日頃の林業普及活動、試験・課題研究に関する実績等の発表を通じて、知識・技術の相互研鑽、交流、連携を深め、愛知県の森林・林業の発展に寄与することを目的に毎年度開催されているもので、今回、愛知県林務課からの要請を受けて発表したものです。

当日は、関係者約一〇〇名の参加のもと、循環型施業、木材の安定供給・流通、ニホンジカ被害対策など林業普及指導員等の取組が発表される中、当所の



発表の様子

業務グループの一般職員と首席森林官が「トータルコスト削減への挑戦！伐・造一貫作業システムin愛知」と題して平成二十六年年度に実施した取組事例について発表しました。この伐・造一貫作業システムは、従来別々の契約・実行としていた生産事業と造林事業を一括して契約し、当該年度内に実行するものです。生産事業においては、先進的林業機械を使用し、集材は全木集材とすることにより枝条・端材等を林内に残さず地拵作業を省略しました。また、造林事業においては、集材作業後にコンテナ苗を秋植えとすることで下刈回数の省略化を図るなど約一八割のコストの削減を図ることができました。この発表後、参加者から作業システムや枝条・端材等の木質バイオマスとしての有効利用に関する質問が出されるなど関心の高さがうかがわれました。

また、午後からは愛知県豊田加茂農林水産事務所主催による「循環型林業への転換にむけて」をテーマとしたシンポジウムが開催されました。

シンポジウムには、一般市民等約二〇〇名が参加し、基調講演やパネルディスカッション等が行われ、循環型林業への転換に向けた課題や提言を踏まえた意見交換が行われました。

利用期を迎えた豊富な森林資源を活用し、林業の成長産業化を実現していくためには、新たな木材需要を創出し、国産材の安定的・効率的な供給体制を構築していくことが求められています。当所においてもこれらの課題を認識し、愛知県を始め森林・林業関係者との連携を図り、業務運営の推進を通じて、地域の森林・林業の発展に貢献していきたいと考えています。

シリーズ

「森林官等からの便り」



「伊那谷総合治山事業所」

小渋川治山事業所」

治山技術官 中屋忍

長野県下伊那郡大鹿村に所在する小渋川治山事業所は、民有林直轄治山事業の先駆けとして昭和二十五年に開設され、今年で六十六年目を迎えます。

当事業所が管轄する大鹿村は、中央構造線が南北に縦走しており、それに沿う

形で、東に三、〇〇〇メートル級の高峰を連ねる南アルプス、西に一、八〇〇メートル級の伊那山脈が在り、急峻な地形となっています。

この中央構造線と点在するその他の断層の影響を受けた地質は脆弱で、東側は三波川結晶片岩類の丘陵性地すべりを引き起こし易い地形であり、西側は深成岩類の風化花崗岩マサの多い山腹崩壊を引き起こし易い地形となっています。

このような地形・地質のため、村内のいたる所で山腹崩壊が発生していたことから、長野県及び地元からの強い要請を受けて小渋川地区民有林直轄治山事業が始まりました。

昭和三十六年の梅雨前線豪雨による災害では、大西山の山腹斜面大崩壊等によ



大鹿村から赤石岳を望む

り多数の死者を出すなど、大鹿村全体で甚大な被害を受けました。その後も台風などの自然災害で山地河川荒廃が頻発するなか、昭和五十七年には中洞地区で大規模な地すべりが発生し、村民の生活環境に多大な不安の影を落としました。復旧には高度な技術が必要であるとともに、活発化した地すべり活動も広範囲であったため、昭和五十九年より直轄地すべり防止事業にも着手することとなりました。



集落に近い大西山（山腹工）

崩壊地を森林に復元し、地すべりを抑制抑止するために行う治山事業は、長期に亘る地道な施工が求められます。

古くから自然災害に遭ってきた大鹿村ですが、数多の被害を乗り越えて復興に



鳶ヶ巣（山腹工）

尽力する人々により、美しい村を築いてきました。かつての被災地大西山は、春には三、〇〇〇本の桜が咲き誇る公園として多くの人々を魅了しています。

当事業所の歴代主任も、大鹿村の森林復旧の一助になればと、治山事業を推し進めてきました。今後も自然豊かな大鹿村の緑化再生に寄与できるよう、引き続き取り組んでいきたいと考えています。

行事・会議等の予定

◎生産・販売事業担当者会議

4月19～20日 中部局

◎第一回森林管理署長等会議

4月25～26日 中部局

古くは胞衣山や胞山とも記載され、伊邪那伎、伊邪那美の夫婦神が、神坂峠を越え、美濃の地に入られ天照大神を産



中津川市から見た恵那山（船伏山とも言われる）

中央アルプスの最南端。岐阜県と長野県の県境に、岐阜県美濃地方の最高峰「恵那山（標高二、一九一メートル）」があります。



恵那神社（前宮本社）

境内には樹齢一〇〇〇年とも言われる夫婦杉（県指定重要天然記念物・樹高約四十六メートル）が並び立ち神社の歴史を物語っています。

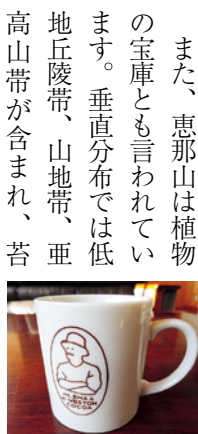


恵那神社（奥宮）

んだ際、その胞衣（胎児を包んだ膜と胎盤）をこの山に納めたことからといわれています。よってこの地では、伊邪那伎大神、伊邪那美大神を主祭神として、山頂に奥宮本社を、麓には前宮本社を置き、恵那神社としてお祀りしています。

山頂はコメツガやトウヒなどの高木に覆われていますが、展望台や避難小屋裏

また、恵那山は植物の宝庫とも言われています。垂直分布では低地丘陵帯、山地帯、亜高山帯が含まれ、苔



ココアカップ



ウェストンの胸像

恵那山神社の近くには「ウェストン公園」があります。明治二十六年に外国人で初めて恵那山に登頂したウォルター・ウェストンが世界に恵那山を紹介した功績を称えて銅像と公園が整備され、登頂した日である五月十一日には毎年ウェストン祭が開催されます。参加者はお祓いを受け、ウェストンが山頂で飲んだココアや五平餅が振る舞われたり、県重要無形民俗文化財の恵那文楽を鑑賞することができます。

へ右折

中央自動車道中津川ICより国道一九号線を北上、中村交差点で国道三六三号線へ右折

〔自家用車〕

二三分

JR中央本線中津川駅下車、北恵那交通バス「恵那山ウェストン公園方面」

〔公共交通機関〕

◆アクセス

い。

近隣には妻籠・馬籠宿などの中仙道の宿場や、天照大神が産湯を浸かったといわれる湯舟沢の中津川温泉があります。麓の中津川市は和菓子の里でもあります。秋には「栗きんとん」の食べ比べなどもできるので、ぜひお立ち寄りください。

手の岩から僅かですが眺望を楽しむことができます。



山頂の展望台